

## 日本教育大学協会が設立70周年記念シンポジウムを開催

日本教育大学協会（会長＝出口利定・東京学芸大学長）は11月17日（日）、日本教育大学協会設立70周年記念シンポジウム「未来の教育と教員養成」を一橋講堂（東京都千代田区）において開催し、会員大学・学部の構成員をはじめ私立大学や教育委員会、報道関係者など約110名が参加した。

日本教育大学協会は、昭和24（1949）年11月15日に発足し、大学・学部の質的向上と教育に関する学術の発達を図り、我が国の教育の振興に寄与するという協会設立の目的に沿って、教員養成の改善向上を中心的な課題として、多年にわたり活動を行ってきた。

シンポジウムの前半には、「国立教員養成大学・学部の役割とは」と題し、大学における教員養成の現状や国立大学改革の方向性の説明を交えつつ、教師に求められている力、そしてその教員を養成する教員養成大学・学部には何が求められているのかについて、浅田和伸文部科学省総合教育政策局長による講演を行った。

後半は、「Society5.0時代に向けた教員養成の今後の展望について」をテーマに、松田恵示日本教育大学協会企画・調査研究委員会委員長（東京学芸大学副学長）を司会としてパネルディスカッションを行った。はじめに、企画・調査研究委員会に設置されているワーキンググループ（以下、WG）において、研究者養成とEd.D.の観点から検討を行っている蛇穴治夫WG座長（北海道教育大学長）、同じくWGにおいて教員免許の国家資格化の観点から検討を行っている後藤ひとみWG座長（愛知教育大学長）から、各WGの検討状況について報告があった。その後、各WGからの報告を受け、柳澤好治文部科学省総合教育政策局教育人材政策課長および代田昭久長野県飯田市教育委員会教育長からそれぞれコメントがあり、引き続きフロアーも含めて活発な意見交換が行われた。

基調講演やパネルディスカッションをとおり、国立教員養成大学・学部が期待されている役割について認識を深めるとともに、教員養成に対する多様な視点からの意見や新たな提案が出されるなど、有意義なシンポジウムとなった。



浅田総合教育政策局長



松田企画・調査研究委員会委員長



柳澤教育人材政策課長 代田飯田市教育委員会教育長 後藤WG座長（愛知教育大学長） 蛇穴WG座長（北海道教育大学長）



会場の様子